

生産資材価格の引下げに向けて（概要）

資料1

	価格比(対韓国)(事例)	生産・輸出の状況	業界構造等	法規制等
肥料	約1.7～2.1倍	国内生産量:約300万t 輸出量:約70万t (2012年度)	<p>過剰供給構造による低生産性</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカーが乱立し、工場が各地に点在 〔生産業者数:約3,000〕 多銘柄を少量ずつ生産 〔銘柄数:約2万(韓国:約5,700) 1銘柄あたりの年間生産量:約300～900トン (韓国:約17,000トン)〕 	<p>施肥基準等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県の施肥基準が細分化、JAが作成する栽培暦により銘柄が指定 JAの予約注文書に掲載されている銘柄の約半数は1JAのみが取り扱う独自銘柄
農薬	約0.7～3.3倍	【製剤】 国内生産量:約22万t 輸出量:約1.5万t (2014年度)	<p>過剰供給構造による低生産性</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカー数が多い 〔製造業者数:169(韓国:70) 製造所数:約300〕 	<p>農薬登録制度</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本、欧米、韓国でほぼ同様の法制度となっているが、運用面で差(例:作物群での登録を可能とする仕組み、農薬の成分組成管理方法) ジェネリック農薬の普及率は5%(韓国:23%) <p>防除基準等</p> <ul style="list-style-type: none"> 各県の防除基準、JAの防除暦への掲載に当たり追加試験が必要となる場合も多い
農業機械	約1.2～1.6倍	国内出荷額 :約2,800億円 輸出額:約2,500億円 (2015年度)	<p>寡占状態による競争性欠如</p> <ul style="list-style-type: none"> 国内大手4社の出荷額が8割を占め、シェアが固定 輸入も国内大手4社で系列化して独占 主要3機種で輸入機の割合は3%のみ 	<p>農業機械化促進法</p> <ul style="list-style-type: none"> 法律に基づく鑑定(任意)に合格していることが、補助事業・金融支援の要件
配合飼料	約1.0～1.2倍	製造量:2,308万t 輸出:ほとんどなし (2014年度)	<p>過剰供給構造による低生産性</p> <ul style="list-style-type: none"> メーカーが乱立し、工場が各地に点在 〔製造メーカー数:65社115工場(韓国:56社95工場)〕 多銘柄を少量ずつ生産 〔銘柄数:約1.6万(韓国:約1,500(農協系統分(シェア3割))) 1銘柄あたりの年間生産量:1,456トン(韓国:3,765トン)〕 	
種子 (稲・麦・大豆)	—	—		<p>主要農作物種子法</p> <ul style="list-style-type: none"> 県が主体となり奨励品種の決定・種子確保を実施。奨励品種のほとんどを国・県が開発 民間企業が種子産業に参入しにくい
農業用温室	約1.2倍	国内販売額 :250～400億円(推計) (2014年度)	<ul style="list-style-type: none"> 建設資材メーカー等が兼業で製造・販売するのが通常の形態 パイプハウスは規格がなく、注文生産のため、型式が多い(大手1社だけで50種以上) 	<p>強度の業界基準等</p> <ul style="list-style-type: none"> 業界基準や補助事業対象要件(耐風速50m/s)により必要以上の強度のハウスの整備が多い
段ボール	約1.1倍	段ボール原紙生産量 :約920万t (2015年度)	<ul style="list-style-type: none"> JA生産部会等のユーザーから注文を受けて製造する段ボールメーカー数は、約2,400 	<p>規格</p> <ul style="list-style-type: none"> 産地毎に段ボール規格が設けられ、様々な規格の段ボールが流通(JA生産部会等ごとに発注)(例:キャベツ(338規格))